

# 第77回 秋季東北 高校野球

第2日

(福島第2代表)と戦つた  
(本田海輝、佐藤正悟)

## 県勢16日の試合

(左のチームが一塁側)

◇ヨークいわきスタジアム

▷準々決勝

東日本国 青森山田(10・0)  
際大昌平

第77回秋季東北地区高校野球大会は第2日の13日、福島県いわき市のヨークいわきスタジアムなどで2回戦4試合を行い8強が出そろった。県勢は八戸学院光星(第2代表)が日大山形(山形第2代表)に2-3で競り負け初戦敗退。再三得点圏に走者を進めたが、あと一本が出なかった。14日は休養日。準々決勝以降は同スタジアムで行われ、第3日の15日と第4日の16日に準々決勝を2試合ずつ実施。県勢で唯一勝ち残っている青森山田(第1代表)は、16日に東日本国際大昌平(福島第2代表)と戦つた。

# 光星惜敗 精彩欠く

## 「全員でもう一回頑張る」



「日大山形一八学光星」6回表一死一、三塁のピンチにマウンドに集まる八学光星ナイン。ヨークいわきスタジアム

2年連続のセンバツ出場を目指した八学光星だったが、この日は強みの打力が影を潜め、大事なところで守りのミスも出た。エースの左腕柴田が「すごく悔しい」と振り返ったのは四回、一死一、三塁のピンチでのプレー。九番打者が初球に仕掛けてきた三塁側へのスクイズの打球を、マウンドから駆け降りた柴田が右手のグロブでつかみ、捕手トス。タイミングは微妙だったが、体勢が崩れたため送球は右にそれて転がり、三塁走者の生還が一塁走者の三塁への進塁を許した。次打者が飛んでこの走者をかえし、結果的にこの試合の決勝点となった。

## エース柴田 守りのミス悔やむ



4回表、日大山形1死一、三塁、八学光星はスクイズを捕球した投手柴田の本塁送球が乱れ、1-2と勝ち越しを許す。捕手米澤

「すごく悔しい」と振り返ったのは四回、一死一、三塁のピンチでのプレー。九番打者が初球に仕掛けてきた三塁側へのスクイズの打球を、マウンドから駆け降りた柴田が右手のグロブでつかみ、捕手トス。タイミングは微妙だったが、体勢が崩れたため送球は右にそれて転がり、三塁走者の生還が一塁走者の三塁への進塁を許した。次打者が飛んでこの走者をかえし、結果的にこの試合の決勝点となった。

【評】八学光星は投打に精彩を欠いて惜敗した。0-1で迎えた初回、無死三塁から田中颯の中犠飛で同点に追いついたが、四回、守りのミスと犠飛で2点を奪われ勝ち越された。その裏に米澤の左前適時打で1点を返したが、その後は五、七、八、九回と得点圏に走者を進めながらあと一本が出ず得点できなかった。柴田、養元の2投手は計8四死球と制球が乱



8回裏、八学光星無死一塁、初球を引っかけて内野ゴロに倒れる久保

していかないと勝てない」とを任せられた。センバツ出場は絶望的となり、「正直、めは絶望的となり、一正直めを目標して八学光星に進んだ」と振り返る。冬場のパワーアップを誓った。左藤正悟

練習会では、内角球を引っ張り2本の長打を放っていた久保。この日は外角を中心に配球するバッテリーの術中にはまり快音を響かすことができず、きょうは外角に来ると分かってはいたが、全部ミスコットになってしまったと悔やんだ。県大会では本塁打を記録するなど期待が懸かるスラッガー。今後に向け冬を越えて強くなり、チームを引っ張っていきけるバッテリーになる」と決意を語った。